

## 平成28年度岡山市がん対策推進委員会概要

日 時：平成29年2月22日（水）  
午後1時30分～午後3時30分  
場 所：岡山市保健福祉会館  
9階 機能回復訓練室

### 1 開 会

あいさつ （松岡保健福祉局審議監）

### 2 報 告 （すべて事務局説明）

(1) 『国の動向について』・・・資料1参照

(2) 『平成28年度の取り組みについて』

①早期発見の推進・・・資料2、資料3参照

②がんの予防について・・・資料4参照

#### 【禁煙対策について】事務局説明

喫煙をやめたい人がやめられるよう禁煙助成制度を設けている。健康保険による禁煙治療の枠も広がってきたのでこの制度の活用対象は減っているが、今年度は現在のところ2名申請があった。また、禁煙のための短時間支援のきっかけとなるよう、市が実施する各種がん検診の間診票に喫煙の有無を随時追加している。健診説明会でも短時間支援をお願いするとともに、啓発チラシを各検診実施機関に配布して、禁煙に向けたアプローチをお願いしている。併せて、医師会で喫煙に関しての講話を実施した。

③緩和ケア・在宅医療の推進・・・資料5、資料5追加参照

#### 【多職種連携等調査事業について】事務局説明（資料なし）

今年度から岡山市が岡山大学病院等に委託して実施している。がん治療の際の口腔ケアや歯科治療、がん治療の際、合併する口腔粘膜炎などの予防を提言するよう、3月を目途に事例集を作成しているところ。完成したら、市内のがん診療を実施する医療機関や歯科医院へ配布する予定。来年度は、その事例集をもとに歯科医師会向けに研修会等を実施し、がん治療が口腔の部分でもスムーズに行えるよう支援していく予定。

○議 長： アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の作成が進められているということだが、例えばがん患者がどのような治療、療養のステージのときに病院や地域でこれを使うという、具体的な使い方について何か考えているか。

○事務局： ACPについては、元気なうちから話し合っておこうというものであり、現

状では、かかりつけ医の方に進めていってもらいたいと考えている。そのためにも、まずは医療や介護の専門職に向けて啓発していきたい。そのうえで、当然、病院の先生や救急の窓口でも理解していただけるよう努めたい。そして、市民にも普及啓発を進めていく予定である。

○議長： 病院の方でも、ACPをどこで始めるかという議論がある。その中で、進行がんの治療が始まった時点で、早期からの緩和ケアではないが、ACPの話を持ち出すと余りにも情報量が多過ぎて患者さんがパンクしてしまう。地域での治療段階からACPについて話をしてもらえると、とてもよいと思う。

○委員： 資料2について、いずれのがんでも、陽性反応適中度が岡山市と全国平均で随分と差がある。岡山市がなぜこんなにどのがんでも低いのか。何か理由があるのか。

○事務局： 陽性反応適中度は、要精検という指示があり、精密検査の結果がんであることが判明した方の割合。

例えば、胃がんは全国と比べると、岡山市は要精検率がすごく低い。全国ではたくさんの方に検診の際に偽陽性、本当はがんではないのに要精検という指示が出て、その結果色々な検査を受けてかえってダメージを受けることが問題になっており、要精検率が高い。岡山市の場合はこの要精検率が余り高くない結果、胃がんの陽性反応適中度は全国水準よりも高いという結果になっている。

肺がんは要精検率が全国よりも少し高い、その結果、陽性反応適中度は低い結果になっている。大腸がんについても陽性反応適中度が非常に低い。要精検の方が精密検査を受けて初めてがんと判明するところが、精密検査を受けなければ当然がんであるかは分からない。大腸がんは約半数しか精密検査を受けていない。当然ながら、半分しかがんが発見できず、せっかく検診で要精検となっても、精密検査を受けないままがんが見落とされている可能性があると思われる。

○委員： 2つお聞きしたい。乳がん死亡率が高いという話があったが、最近40歳の女性で働く方が非常に増えている。乳がん検診、マンモグラフィについて、働いている方が受けやすいよう、土曜検診や夜間検診を実施している自治体もあるが、岡山市はそういう取り組みを考えているか。

それから、子宮頸がん検診について、21歳でクーポン券を出しているが、住所を移さずに大学に行っている学生がとても多く、検診の案内が家に

は来ていたようだが忙しくて受けられないというような声をよく聞く。例えば、22歳で就職する学生が多いので、検診クーポン券未利用者に対して22歳で再度案内するのもありではないかと思うが、いかがか。

○事務局： 乳がん検診に関して、土曜日、日曜日、夜という形で集団検診を計画することは、現在岡山市ではできていない。年度初めに全戸配布する「けんしんガイド」で、土曜日、日曜日、夜間に開業の医療機関、女性の放射線技師や医師がいる医療機関も併せて紹介している。休日、夜間の検診については、ご意見として検討していきたい。

22歳の方への無料クーポン券配布は今まで全く考えていなかった。今後の参考意見とさせていただきたい。

### 3 議 事 (すべて事務局説明)

#### (1) 『平成29年度の取り組みの方向性』

##### ①受診率向上について・・・資料6参照

○議長： 受診率は伸び悩んでいるが個別勧奨で受ける人は増えているということだった。国のがん対策計画の目標が、がん死亡の75%未満の年齢調整死亡率の20%減少だったが、国の最終報告としてはこれが16%に留まったというのが現状。

年齢調整死亡率の減少を進めていくためには、検診受診率を上げていく必要があるということになると思う。国のデータを見ると、がん対策計画ができて以降、肝臓がんは計画後に減少し、死亡率の減少が加速した。乳がんは、計画後に死亡率の増加が止まり、成果が出てきている。胃がんは、計画後もほぼ同じように死亡率が下がっている。残念ながら、肺がん、大腸がんもだが、計画が始まってから死亡率の減少が鈍化している状況にあるし、子宮頸がんに至ってはむしろ増えてしまった。

岡山市の説明にあったように、乳がんはクーポンのこともあり受診率も増えているが、最初に議論いただきたいのが肺がん。肺がん検診の受診率がむしろ下がっている。60歳から70歳あたりの方の受診率が下がっているが、これに対して何か提案があれば是非挙手をお願いしたい。

地域での肺がん検診受診者で60歳以上の方が少ないのではないかとということに対し、愛育委員としての活動での問題点や気づいた点があれば。

○委員： 岡山市愛育委員協議会としては、従来女性のがんについて取り組んできた。

肺がん検診の受診率が低迷しているということで、平成29年度は肺がん検診の受診率を上げるように頑張っていきたいと思っている。4月の総会で会長研修会を行う。その時に「肺がんの予防と喫煙」をテーマにみんなで学習したい。その学びを活かした声かけを行いたいと思っている。

○議長： 就業中の方は企業検診で肺の胸部レントゲンを受けられていると思われるが、先ほどの（資料2の）グラフでも、退職後の肺がん検診の受診がいま一つ伸びない。男性があまり受けられていない。退職後の検診について、退職時に「退職後は集団検診できちんと受けてください。」と、必要性の説明、教育ができればということの議論も前回あったと思うが、いかがか。

○委員： こういう検診については町内会の回覧のみで、ほとんど何もないのが実情。自主的なものと捉えられているようだ。

一番気になるのは、退職後の受け皿はあるのか、ということ。『けんしんガイド』を見て「勝手に行ってください。」ということなのか。

職場で現役で働いていても、検診というと職場の中だけで、特定のものはあまり行くチャンスがない。クーポンがあったがそんな話もあまりない。しかし、受診は本人の自主性に任せられている。今の空気はそんな感じかなと私は思っている。これから職場から離れて自主的に行く場合は、町内会でもどなたかが、「検診を受けようね。」みたいな、些細なものが、空気感があれば嬉しい。

○議長： 岡山市のパンフレット（『けんしんガイド』のこと）は、中を見れば確かに分かるが、モチベーションと言うか、まずこれを開くまでに至らない。（家の）どこにあるか分からない。いつか配られていたと思うが分からない。多分、多くの方がそういう形になっているのかと思う。やはり、検診の大切さを広報していかなければならないと思う。どのような形がよろしいか。

○委員： 職場で受けていた方が退職したら受ける機会がなくなる、そんな方に対しては（『けんしんガイド』で）強調して書いてみるというのは一つの工夫かなと思う。

作る側の関心と見る側の関心のミスマッチはあるかと思う。検診を受ける意義を感じるのと、退職というのはライフステージで大きな転換なので、その琴線に触れるような言葉で目が止まるような工夫というのはあり得るかなと思う。

退職時の（受診）勧奨は大企業の場合は可能かもしれないが、諸々の雑務

がある中で、特に（検診受診について）何かお願いするというのは難しいのではないかなど。現役で仕事をする方が大多数の中での話なので、そこは地域で引き受けて、しっかり工夫してもらおうということかと思う。

○委員： がん対策基本法には、啓発の意味でがん教育のことが書いてあると思うが、これは多分学校教育だけではなくて、社会教育も含まれるのではないか。文科省の管轄と思うが。岡山市の場合、公民館が各地区にあるということで言えば、その活用で年齢の高い人への啓発はいけると思う。『けんしんガイド』が各家庭に行っていたとしてもあまり広げていない。でも、重要なところだけを取り出したリーフレット等があれば公民館の利用者が見るのではないか。もっと積極的に、例えば公民館単位で、がんに対しての何か行事を組むようなことをお願いする。

肺がん検診も、ワンコインはとてもありがたいと思うが、私たちがよく聞くのは、エックス線検査で分かるのはもうかなり進んだ分だとか。だから、CTまでやるとか、もっとその先の検査の方法もあるみたいなことを書いて、「まず初めの一步はワンコイン検診です。」とか、岡山市がやりたいことや今後気をつけたいことをクローズアップしたようなものがあると、よりいいのかなと感じた。

それともう一つ、妄想みたいなことだが、マイナンバーの活用が進めば、証明書等を取りに来た場合に、検診をずっと受けていない人はどこかでピックアップされ、「受診いかがか。」というような声かけができるようになればいいなど。

○議長： インパクトのある、心に響く（言葉）、難しいが。例えば、隣の広島県はデーモン閣下に（広島県がん検診啓発特使として検診受診の啓発を）お願いしたら受診率が確実に増えたそう。今年の肺がん学会にも閣下が来られ、とても宣伝していた。確かにインパクトがあった。そういう方法もありかと思う。それと、退職時に個別に一人一人に対応するのは確かに難しいので、例えば、（『けんしんガイド』を）退職時に企業で配ってもらうのも一つの考え方かと思った。

『けんしんガイド』はよくまとまっているが、確か備前市だったか、これに受診の申込書が付いている。『けんしんガイド』だけだと自分で電話して探してということになるが、探すのは探さないといけませんが、これを持っていけばいいという受診票まで付けている。人口が全然違うので同じことはできないと

思うが。

それと、公民館は確かに活用しないといけないということで、また愛育委員の方々も含め、これは是非進めていただければと思う。

企業によっては女性社員に乳がん検診を提供しているところもあるようだし、企業検診と自治体の検診とのすり合わせがうまく進むといいと思う。

広報について。検診の大切さをいかに勧めるか。デーモン閣下ではないが、何かいい方法がないかと思っている。先日、横浜でがん治療学会があった際に桜木町の駅でバスを待っていると、市バスに『がん検診』というラッピングが付いていた。ついつい見てしまうので、これもいいかと思った。企業でも色々な活動があるので、そういったことももしよろしければ考えていただけたらと思う。

最後に、これから企業として検診へのアイデアというか、ラッピングなどいかがか。

○委員： 我々は『がん検診を受けていますか？』のリーフレットを作っているのですが、こんな感じの啓発を継続していきたい。年に何回か（勤務先の）支店で「がんを知る展」というものをやっているのですが、そういう形の啓発はしている。職員に向けては、人間ドックや検診は強制的に受けさせているので受診はしているが、問題になっている退職後や、企業に入られてない方に対してどういうことができるか。啓発していくということぐらいしか今は思いつかない。

○議長： 企業広告や、地域の啓発にも参加いただけるととてもありがたいと思う。

○委員： 肺がん検診の集団検診のことだが、集団検診はこれは昔結核が華やかかなりし頃からずっと地域で根づいた検診だったと思う。『けんしんガイド』にも、日程については「『市民のひろばおかやま』や『保健所からのお知らせ』をご覧ください。日程が近くなると、地域回覧でもお知らせします。」とだけ書いてある。これでは少し周知がしにくいと思う。60歳代の肺がん検診の受診状況、集団検診が少ない。医療機関実施の方が多ということで、これは集団検診がもっと有効なのではという気がするのだが。

○議長： おっしゃるとおり、『けんしんガイド』を見て、なかなか探しづらいのはある。是非岡山市で検討いただけるとありがたい。確かに岡山市、岡山県の陽性適中率は低いですが、肺がんに関しては要精検率が若干高いことはある。ただ、この30%の早期がんの発見、これは全国に誇れるものでもある。是非がんの集団検診をもっと活用していただければと思う。

## ②喫煙対策について・・・資料7参照

○委員： 昨年もお話したと思うが、岡山駅東口、そして西口のところ、ちょうど通り道に喫煙場所がある。東口はビックカメラの方向はもう完全なオープン。もう一つのところは壁はあるが。その辺でも啓蒙をどうしていこうかという話もあったかと思うが、現状は変わっているのか。世界的に見ればヨーロッパでも色々なところ、空港内は完全な分煙だし、フランスなんか当然そうだが、完全な分煙。もう何年も前のことだが。

○議長： 事務局から何かあるか。

○事務局： 駅前の喫煙場所、それから囲いをした喫煙室の部分は、実際のところは今のところ特段その部分について事業が進んでいるというところはないが、課題としては認識している。保健の部分と環境局があそこの部分を持っているので、そこと協議しながら対策ができたかと思うところだが、今のところ報告できるようなものがないので大変申し訳ない。ただ、認識としてはもちろん考えている。

○委員： （岡山駅東口の喫煙コーナーについて）僕は岡山市の恥だと思う。あんな駅は多分ない。駅を表口に出て、喫煙所があって、そばを通っても受動喫煙になる。そのくらいたくさん吸って、何であんなことが許されるのかということとは常々疑問に思っている。昨日も電車を使って降りた時に「こんな駅はない。」と思った。是非何とかしていただきたい。あれはJRが決定権を持っているのか。

○事務局： いや、市にある。

○委員： それならば、市で是非お願いしたい。

○議長： 本当に是非お願いしたいと思う。バスを待っている間も苦しい。大学病院に向かうバスを作ってもらったが、バスを待っていると後ろから煙が漂ってくる非常に不健康な状況。少なくとも、病院に行くバスの待合の方が暴露されないように是非是非何か検討をお願いしたい。インターネットを見ると、全国分煙ができてない駅ということで岡山駅は結構上のほうに出てくる。全国的にちょっと恥ずかしいので是非お願いしたい。

禁煙教育については、これはもう引き続き、先ほどのがん教育を含めて、やはり子供さんのときから、がんという病気に対する知識を持ってもらい、その子供さんから親御さんに禁煙を勧めてもらうということも大切な

ことかと。時間かかるが、これは是非進めていければと思う。

恐らく、医師会には禁煙したいという方が来られると思うが、いかがか。何かそういう方をより増やす、あるいは禁煙をより進めていくために、医師会として取り組まれていることがあれば、あるいはこうなるといいなというところがあれば、是非お願いしたい。

○委員： 岡山市医師会です。確かに喫煙は、医療側からいけばとんでもない話で、先ほどあった保険診療でも実際行っているし禁煙指導もやっている。あと、学校医や産業医で回ってみると、やはりトップの方の考え方というのがかなり影響していて、具体的にはあれですけど、実はこの間施設の中に自動販売機があるということで、「これも当然撤去しましょう。」という話になった。

それと、喫煙場所を設けるにしても、きちっと明示すると。なかなかその辺の意識がまだまだできてない事業所が結構ある。大抵は敷地内では可、建物の中で禁煙、という場合は外で吸うわけだが、その場所もなかなか一定せず、外から他の者が見た時に明らかに喫煙場所があると明示するようには言うが、その徹底がやはり必要という気はする。

○議長： 歯科医師の方では、恐らく禁煙の話をしていると思うが、例えば小児歯科でも、子供の時から、『たばこ吸ったらこんなになるよ』というような教育とか、何かがん教育も絡めて喫煙に対して歯科で何かできる活動がございましたら。

○委員： 歯科医師会です。実際には子供に対する歯科医での喫煙の教育はなされていないが、ただ勉強している小児歯科が、特に得意な先生なんかだと、やはり親御さんが吸い子供が室内で受動喫煙していると、まず歯茎の状態が悪くなる。もちろん色だけじゃなくて、子供なのにもかかわらず歯茎の状態が悪くなる。そういったところから、親御さんに「この子の歯茎の悪い原因はご両親が残念ながらたばこを吸っているせいだから、どうにかならないものか。」というふうな活動をしている先生はたくさんおられる。

○議長： とてもいいお話を伺った。その他、よろしいか。

薬剤師会では、何か薬を薬剤師として薬局なり何なりで、そういう喫煙に対してアプローチをしていく取り組みというのは、何かできそうなことが。

○委員： 薬剤師会では、まず学校薬剤師という活動、主に検査等色々なことするが、その時に薬剤師だから薬剤防止ということを全面的にやっておき、それに関連して未成年の喫煙、たばこ、酒等について学校薬剤師が学生に向けて話すとい



うことをしている学校はあると思う。

それと、薬局に患者さんが来られた時に、初回アンケートで、飲酒をするか、たばこを吸うか、ということの確認をしている。薬局に来ている患者さんが、どの方がたばこを吸い、どの方が吸わないかというのを薬剤師が把握しているはずなので、たばこを吸っている方で生活習慣病のお薬飲んでいる方は、そういう禁煙の指導を積極的にすることは可能。それで、そのためのパンフレットや資料をいただければそれを使って患者さんが来られるたびに声かけすることは可能かと思う。

○委員： 患者会です。飲食店での喫煙がすごく多い、普通のランチとかはいいが、特に居酒屋で禁煙・分煙しているところがほとんどない。禁煙対策として、何か罰則ではないが、そういうものはあったと思うが。

飲食店、特に居酒屋なんかで、そういう禁煙とか分煙とか対策をきちんとしているところには何か特典があるとか。何かアピールしていただき、受動喫煙をしない店として売り出す、特に私は居酒屋さんでしてほしい。今、本当はない。行って換気扇が回っている、そこでお酒飲んだりするのは非常に苦しくて、もう行きたくないと思う。何か対策みたいなものができたらいいなと思う。

○議長： おっしゃるとおり、本当に飲食店の喫煙というのは何とかしないといけないが、国では、資料7のとおり、そういう飲食店で一応原則建物内禁煙というのを厚労省が打ち出してはいるが、どうも小規模ではいいとか、何か少し骨が抜かれているような状況になっている。途中お話しいただいたように、ここは禁煙のお店だということ売り出すことで客が増えていくといいと思う。岡山県では、このお店は禁煙のお店だということを公示できるような何かがあれば。

○委員： これは岡山県として、従前から禁煙・完全分煙の施設ということで、認定した施設についてはその旨を示すシールを配布するとともにホームページで紹介することを従前から行っている。現在それが県内で2,550ぐらいある。ただ、チェーン店などが集団で入ってくると（認定施設の）数が上がるが、今は（増加に）苦戦している状況。

これをもっとしっかりPRして、お客さんがそんな店に集まる仕掛けができればということだが、如何せん二千数百もあり、一方で紹介しているのはホームページで、特定のところだけPRするのは困難であり、先ほどおっしゃった

ようなことも考えてはいるが、苦勞しているのが現状。

○議 長： ちなみに、そのシールは入り口に張るのか。

○委 員： 張る場所はお店に一任している。貼ってないところもあるかもしれないが、基本的には入り口の見えるところへの貼っていると思う。

○議 長： 注意してみる。もっと目立つようにしてもらえると。いや、「これ（シール）があるから行く。」という方がきっと出てくると思うので、店にとってはメリットかと思うが。

喫煙対策については、一番の問題はやはり岡山駅、あれは子供さんの教育によくない。「吸っていいよ。」というメッセージを子供さんに植えつけてしまう。職場、学校で禁煙の対策を進めていただいていること、そして飲食店に関しては、恐らく子連れで行けるお店というのは事例的にはそういったお店のほが儲かっているというのが本当にあるみたいだが、なかなかそこまで納得してもらえない。食事ぐらいきれいな空気で食べたい、おいしいお酒ぐらいきれいな空気で飲みたいというところを是非アピールしていただければと思う。

### ③感染症に係る特定のがんの啓発について・・・資料8参照

○委 員： いつも問題になるのは、自分から検診を受けた方は大体結果がよく分かっているが、例えば、他の病気で大病院を受診されて入院すると、通常は入院時にB型肝炎もC型肝炎も検査するが、その結果が必ずしもご本人に報告されず、検査をせっかくしているのを見過ごされたままになっている方がいらっしゃる。もう一つは、まだ全くそういうことを意識されず肝炎検査を受診されていない方が全人口の40%ぐらいに相当するのではないかというデータがある。

B型肝炎もC型肝炎も今は治療法が非常に進んだので、きちんと治療を受ける機会がない方をいかに掘り起こすかが、これから残された問題ではないかと思う。

○議 長： いずれ亡くなるかもしれないという病気だけに、是非その対策をよろしくお願いしたい。

胃がんに関して、ピロリについてだが、内視鏡検診が始まり、検診の現場で何か変わったところはあるか。

○委 員： 胃炎はピロリとほぼイコールだが、内視鏡検診に関してはまだ始まったところ。今まではレントゲンで胃炎があると言い、ピロリは血液検査でやると言っ

て来られる場合があった。このパターンは最悪だったが、内視鏡検査が始まったことで、治療の判断ができるので、多分治療は進むと思う。しかし、それ以上のことは今のところ何もない。

○議長： 内視鏡ができると、すぐに治療に入ると。

その他はいかがか。パピローマに関しては、特に今具体的な話はなかったが。特に委員の先生方から全般を通して質問等ないか。

○委員： 岡山県では、肝臓がん、肝炎について、年齢調整死亡率は毎年度フォローしている。一般的にがん全体で年齢調整をすると、岡山県は全国よりも低くなる。その中で、従前は肝臓だけは男女とも全国より多かったので、県としても課題だった。平成27年の直近のデータで見ると少し落ちついてきており、年齢調整死亡率で男性は岡山県15.2、全国14.5で、岡山県がわずかに高いが、女性は、岡山県4.3、全国4.6と全国より低くなっている。全国と岡山県のレベルが接近している状況である。これは、肝炎対策として関係の方々のご尽力の賜物であり、もう一息というところかと思っている。

○議長： 大変うれしい話で、岡山県から肝炎関係の方々の努力の甲斐あって肝がん死亡は減ってきているとご報告いただいた。

#### 4 連絡

委員任期が平成29年8月31日までとなっている。次年度、時期を見て各団体宛てに推薦依頼をする予定。

#### 5 開会

あいさつ (宮地保健管理課課長代理)